

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://jsohkink.umin.jp>

第60回近畿地方会総会にあたってのご挨拶

地方会会長 車谷典男



年一度の地方会総会と特別プログラムを予定通り無事終了できたことに、幹事会を代表して、近畿地方会会員の皆様方ならびに関係者の方々に、改めて心より御礼を申し上げます。

総会時にご挨拶させていただきましたが、本紙面をお借りして、特に重要な事項4点ほどを繰り返し申し上げます。

一つ目は、今年は地方会役員選挙の年であることです。監督官庁の指導により定められた2年に一度の選挙の年です。まず代議員100名超(正確な人数は本部事務局から割り当てられます)と地方会長1名、および監事2名を選出し、本年末までに新代議員の互選によって理事5名(予定)を選ぶという手順になります。本部の選挙規定により、直近2年間の年会費を7月末までに納入していない会員は、選挙権、被選挙権ともに喪失してしまうことに十分ご注意ください。未納の方は速やかに納入して下さい。この規則は厳格に運用されています。今期の近畿地方会の選挙管理委員会として、大学・研究機関関係や各部会からの推薦を受けて、西尾久英会員、埴田和史会員、松本泉美会員、上原新一郎会員、圓藤陽子会員、豊川彰博会員、平田真以子会員の7名を幹事会で承認し、互選の結果、西尾久英会員が委員長をお勤めになることになりました。具体的な選挙方法と選挙スケジュールは、地方会ニュースや地方会ホームページを通じて、西尾委員長から順次公示されることになっています。

二つ目は、いわゆる地方会費は廃止し、広報・通信費を新設しました。現在、学会本部では公益法人化への最終手続きに入っています。一つの法人で、地方会ごとに会費を別途徴収するのは不適切との意見が本部理事会であり、地方会費は廃止されることになりました。一方で、実態に見あう「広報・通信費」を地方会が独自に徴収することは承認されました。本ニュースには郵便振替用紙が同封されています。従来のいわゆ

る地方会費と同額の2千円ですが、地方会ニュースや地方会ホームページ等の広報活動を支える経費として必要ですので、納入をよろしくお願い申し上げます。

三つ目は、地方会のホームページを再リニューアルしたことです。一昨年、リニューアルしたばかりでしたが、当初期待していたようなホームページの構成にならず、更新も遅れがちになっていました。今回のリニューアルは受託会社の実績から、十分期待できるものと考えています。経費は同額です。地方会総会にあわせて既にリニューアルされていますので、ぜひご覧ください。地方会の一層の活性化の重要なツールとして、ご活用いただきたく思います。

そして四つ目は、本年11月17日に第52回近畿産業衛生学会が、和歌山医大保健看護学部で開催されることです。森岡郁晴学会長は、昨年度新設された近畿産業衛生学会優秀演題賞(今回が2回目)に加えて、若手研究者奨励のために第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞を設けるなど、新しく魅力的な企画を立てておられます。一人でも多くの方が演題申し込みされることを期待しています。詳細は本地方会ニュース12Pに掲載されていますので、そちらをご覧ください。

最後になりましたが、今年度も地方会活動のために、会員皆様のご協力とご尽力を賜りますようお願い申し上げます。



(シンポジウム会場)

平成24年度総会議事録

日時 2011年6月16日(土) 13:00～13:50

場所 大阪市立大学医学部学舎4階大講義室

1. 開会

2. 地方会長の挨拶

3. 昨年度物故会員の報告

杉本 寛治(すぎもと・かんじ)氏

菊岡 弘芳(きくおか・ひろよし)氏

浅井 淳(あさい・あつし)氏

本岡 康(もとおか・やすし)氏

天津 健(あまつ・つよし)氏

小林 孝俊(こばやし・たかとし)氏

4. 黙祷

5. 議長選出

圓藤陽子会員(関西労災病院)を選出

6. 総会成立の確認

5月15日現在の地方会員数1,349名のうち出席者63名(委任状474名)。会員の5分の1以上の出席により総会は成立(地方会会則第18条)

7. 議事録署名人の選出

松本泉美会員(畿央大学)

富岡公子会員(奈良県立医科大学)

8. 議事

(1) 平成23年度近畿地方会事業報告(車谷会長)

地方会ニュース第90号(本年5月15日発行)の3頁と4頁に掲載された資料に基づいて説明があり、異議なく承認された。

(2) 平成23年度決算報告(清田副会長)

地方会ニュース第90号2頁に掲載された収支報告に基づき説明があり、異議なく承認された。

(3) 平成23年度監査報告(廣田昌利監事)

廣田昌利監事(平成24年3月29日)と植本寿満枝監事(同24年4月4日)が、地方会事務局(奈良医大)で監査を行い、決算書類にかかわる通帳など証拠書類が適切に管理され、執行が適切に行われていることを確認した旨の報告があった。

(4) 平成24年度事業計画案(車谷会長)

地方会ニュース第90号5頁に掲載された資料に基づき、一部日程を修正し異議なく承認された。

(5) 平成24年度予算案(清田副会長)

地方会ニュース第90号2頁の予算(案)に基づき、日本産業衛生学会の公益法人化に伴い地方会費を廃止すること、新たに広報・通信費(2千円)を徴収すること、今年度は役員改選の年であるため、役員選挙積立金から400,000円の予算額を計上していることなどの説明があり、異議なく承認された。(次頁参照)

(6) 第52回近畿産業衛生学会の進捗状況

森岡郁晴会長から2012年11月17日(土)、和歌山県立医科大学保健看護学部(和歌山市)で開催すること、東日本大震災やタイの大洪水など、健康危機時の産業保健をテーマに特別プログラムを組むこと、昼食セミナー、懇親会等を予定、若手研究者を対象とした第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞を設けること等の報告があった。

(7) 第53回近畿産業衛生学会の準備状況

車谷会長から、従来どおり2013年11月2日(土)、京都大学の中山健夫教授を学会長、同大学芝蘭会館を会場として準備が進んでいるとの報告があった。

(8) その他

地方会役員選挙管理委員会について

西尾選挙管理委員長から、埴田和史氏、松本泉美氏、上原新一郎氏、圓藤陽子氏、豊川彰博氏、平田真以子氏の計7名が委員に選任され、互選で委員長が西尾氏に決定との報告があった。選挙のスケジュールは7月15日発行の地方会ニュース、ホームページで公告、9月下旬までに各役員候補者名簿と投票用紙を郵送、10月上旬必着で投票を予定している。選挙人・被選挙人とも要件は、本年7月31日までの連続2年の会費全納者であることの注意喚起があった。

9. 議長解任

10. 閉会

大豆
スナック

ソイカラ

大塚製薬株式会社大阪支店
〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40
TEL: 06-6441-6532

大塚製薬より
新発売



ソイカラ製品特徴【SoyCarat】

- ソイカラは、まるごと大豆(うす皮を除く)をたっぷり使用。
- 振るとカラカラ楽しい音がします。
- 大豆約50粒分のタンパク質、大豆イソフラボン、食物センイが摂れます。
- 油で揚げていないので、1袋123キロカロリー。
- スナック感覚のまったく新しい大豆です。

平成23年度近畿地方会収支報告および平成24年度予算

1. 収入の部

科目	23年度予算額	23年度決算額	24年度予算額	摘要
(1) 会費収入	2,200,000	2,459,000	2,200,000	
正会員会費収入	1,900,000	2,050,000	0	2,000円×1,025人
特別会員会費収入	300,000	409,000	300,000	総会特別講演等当日参加費
広報・通信費収入			1,900,000	2,000円×950人
(2) 助成金収入	1,890,000	1,839,000	1,890,000	
日本産業衛生学会助成金収入	1,890,000	1,839,000	1,890,000	1,500円×1,260人
本部選挙交付金	0	0	0	
(3) 事業収入	150,000	180,000	180,000	
広告料収入	150,000	180,000	180,000	
(4) その他収入	500	524	400,500	
受取利息	500	524	500	
役員選挙積立金より	0	0	400,000	
当期収入合計	4,240,500	4,478,524	4,670,500	
前期繰越収支差額	4,373,886	4,373,886	3,899,487	
収入合計	8,614,386	8,852,410	8,569,987	

2. 支出の部

科目	23年度予算額	23年度決算額	24年度予算額	摘要
(1) 事業費	3,550,000	2,790,491	3,450,000	
①機関誌費	1,300,000	1,094,715	1,300,000	
印刷費	500,000	493,777	500,000	
広報活動費	150,000	0	150,000	
通信運搬費	650,000	600,938	650,000	
②助成金支出	1,400,000	1,039,351	1,400,000	
近畿産衛学会開催助成金支出	500,000	439,351	500,000	
産業医部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業看護部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
産業技術部会助成金支出	150,000	150,000	150,000	
研究会補助金	300,000	150,000	300,000	
研修会補助金	150,000	0	150,000	
③例会事業費	750,000	556,425	750,000	
地方会総会開催費	500,000	476,425	500,000	
学術担当費	250,000	80,000	250,000	
④調査研究事業費	100,000	100,000	0	23年度産業看護職実態調査
(2) 管理費	1,720,000	662,388	1,920,000	
①運営費	1,220,000	207,890	1,320,000	
幹事、代議員会費	120,000	104,490	120,000	
広報渉外費	1,000,000	52,500	300,000	
役員改選費	0	0	800,000	
運営雑費	100,000	50,900	100,000	
②事務費	500,000	454,498	600,000	
事務局費合計	400,000	400,000	500,000	
備品	0	0	0	
消耗品費	100,000	54,498	100,000	
(3) その他支出	400,000	400,028	0	
役員改選積立金支出	400,000	400,028	0	24年度実施予定の積立金
(4) 事業積立金	1,000,000	1,000,016	1,000,000	
日本産業衛生学会開催準備金	500,000	500,008	500,000	
産業医・産業看護全国協議会開催準備金	500,000	500,008	500,000	
(5) 予備費	500,000	100,000	500,000	23年度事務局費補填
当期支出合計	7,170,000	4,952,923	6,870,000	
当期収支差額	-2,929,500	-474,399	-2,199,500	
次期繰越収支差額	1,444,386	3,899,487	1,699,987	
支 出 合 計	8,614,386	8,852,410	8,569,987	

財産目録 (1)ノートパソコン・デル 1 台 (2)FAX (0744-22-1801) Panasonic 1 台
23年度の会計年度は平成23年3月1日から平成24年2月29日まで。

特別講演

「我が国の心血管疾患の疫学と
リスクファクター
～働く世代と高齢者はどう違うか～」
を拝聴して

関西労災病院

圓 藤 陽 子

滋賀医科大学・上島弘嗣特任教授の特別講演を拝聴致しました。座長から、上島先生は日本の循環器疫学の第一人者であられると紹介されたように、御講演の内容は、先生が携わってこられた循環器疫学研究の成果で、豊富なデータを解説して下さいました。

まず、日本人の心血管疾患の死亡原因の特徴は脳卒中が多く心筋梗塞が少ないことを、年代推移のグラフで示し解説下さいました。脳卒中のピークが1965-70年にあったことは、私も教科書的知識で知っていましたが、心疾患のピークが1970年頃でそれ以降低下しており、心筋梗塞死亡率も、緩やかな低下で上昇傾向が無いとのことのお話は少し驚きでした。WHO MONICA Projectによる海外データと日本人データとの比較図では、日本人の心筋梗塞罹患率が男女ともに最低である事が一目瞭然で、男女とも中国よりも低いので驚きました。

次に、循環器疾患の危険因子について解説いただきました。高血圧、喫煙、糖尿病、及び高コレステロール血症が内外ともに危険因子である事が明らかにされており、その内、血圧とくに収縮期血圧は1965年頃のピークから確実に下がっていることや喫煙率の低下も良く解りました。血清総コレステロール値は、上昇していると言ってもアメリカ人に比べるとはるかに低いレベルでした。これらのことが、日本人の心筋梗塞が低い原因となっているが、その主役は60歳以上の高齢者との説明でした。但し現在、中高年のコレステロール値が高くなっていることから、今後も低下が続くとは期待できないとのことでした。職域健診では、男性における耐糖能異常の増加が、明らかなことから、もう一つの危険因子である糖尿病についてのご説明、およびこれら4因子の関連性についてもお話を聞きたかったのですが、残念ながら1時間では短すぎたようです。質問の時間も作っていただけなかったのを残念に思いました。

第60回近畿地方会
シンポジウムを拝聴して日本生命保険本店
健康管理所

石 神 眞 人



去る6月16日、「職場における心血管疾患予防対策と安全配慮義務」と題されたシンポジウムが大阪市立大学医学部大講義室で開催された。あいにくの梅雨空の下、土曜日午後の開催であったが、会場は追加で椅子が設置されるほどの参加者で満員となり、本テーマの重要性、タイムリー性を強く感じた。

まず、産業看護職の立場から、三菱化学(株)の岡田優子先生が、心血管疾患リスク低減目的にウォーキングキャンペーンなどのポピュレーションアプローチと個人介入プログラムなどのハイリスクアプローチを組み合わせを行っていることを、フロア内完全禁煙を成功させた素晴らしい業績と合わせて報告された。問題点として、グループ会社の中には、安全配慮義務を履行する役割が不在であるケースも多いという現状を挙げておられた。また、健康管理に対する責務は、各グループ会社(安全配慮義務)と個人(自己保健義務)が負う必要があるという基本的なことを学んだ。

次に、産業医の立場から、パナソニック(株)の小林麻美先生が、安全配慮義務の明文化により企業は災害・健康障害の危険性等を「予測」し、可能な限り対策を検討し措置を講ずる必要に迫られているという現実と、経営者の意識変革の必要性について述べられた。システムとして自動化されても、就業措置には「医療が優先」というスタンスで産業医の意見を出されているということに感銘を受けた。

講演の最後は、弁護士の立場から山田長伸弁護士が過労死をめぐる法律上の争点について述べられた。その中で、労働時間管理の徹底を再三に渡り強調されていた。

三人の演者が壇上に上がられた討論では、フロアからの山田弁護士への質問が相次いだ。まだ判例のない事例もあり、解決すべき問題が山積している印象であった。

今年の4月に大学教員から企業の専属産業医に異動し、従来の専門とは異なる業務(特にメンタル関連)に戸惑いを感じながら過ごしているが、慣れ親しんだつもりの今回のテーマでも、ただ単に患者の危険因子をコントロールすれば良いというのではなく、「木(個人)も森(会社)も見ろ」(岡田先生が紹介された言葉)という産業保健の立場を再認識できた、有意義なシンポジウムであった。

第85回産業衛生学会印象記

(財)近畿健康管理センター
医療統括本部・保健指導G

阿部 志津香



平成24年5月30日～6月2日に名古屋で開催された第85回日本産業衛生学会で弊財団は、生活習慣病と健康診断結果に関するテーマとして計3題をポスター発表させていただきました。そこで私は「健康診断結果から見た労働者の睡眠の解析」のポスター発表の機会を得ました。当日はポスター発表の1番でシンポジウムの終了時間と同時だったにも関わらず多数の方に聴講頂きました。諸先生方や同じく保健指導に携わっている方たちより、直接ご指導・ご意見を頂くことができ、貴重な意見交換の場を持つことが出来たことに感謝しております。

益川敏英教授の特別講演で、基礎科学というすぐに効果が見えにくいものを対象に研究を続けていくことの意義として、「100年後の人たちのための研究」と仰っておられました。私たち産業保健も、緊急の処置より予防をメインに活動することが多い職種と考えています。対象者や事業所の将来がよりよくなるように、長い目で見て効果的な方法で保健指導を提供していきたいと思いを強くしました。

メインシンポジウムでは、「希望に満ちた労働者と生活への構想」として、昨今の経済状況も踏まえ法律・経済など多方面から、海外の事例や国際的な取り組み紹介とともに、日本の昔の制度の説明なども含め聞くことができました。日本人の気質的なところも踏まえつつ、現代の社会情勢の中で働く労働者の方々に、どのようにして私たち産業保健職は関わっていくとよいのかを考えさせられました。今後はより個別な対応、1人を取り巻く様々な要因まで含めてサポートが必要なジェネラリストとして関わることができる産業保健職が求められているのではないかと考えました。

日々の仕事では、どうやって目の前の仕事を効率的にこなすかという狭い視点になりがちですが、社内外を問わず積極的に知識や経験を積むことで、より広い視野をもってこれからも活動していきたいと思えます。

第85回日本産業衛生学会印象記

三菱樹脂(株) 長浜工場
健康管理G

西川 幸位



平成24年5月30日から6月2日までの日程で第85回日本産業衛生学会が「希望！に満ちた労働と生活をサポートするために」をテーマに名古屋国際会議場で開催されました。メンタルヘルス不調者の労災認定と民事訴訟の現状、対策や海外赴任者の健康管理、職場の喫煙対策など、現在多くの企業が抱えている問題が取り上げられていました。経済状況が変化する中、共働き世帯が一般的なものとなり多様化する就労状況で仕事と生活をどのように考えていくか、ワークライフバランスをテーマとした産業看護フォーラムがとても印象に残りました。

大西裕美先生から、仕事と生活は単独のものではなく仕事は生活の一部であり、相互に関連し両方の調和が取れることでモチベーションアップに繋がることを伺いました。そして辻上周治先生のお話から、従業員を支援する産業看護職自身が一人の従業員として、ワークライフバランスを意識し、行動することで仕事と生活の両方の価値観を理解でき、従業員により具体的な提案ができることのお話がありました。従業員に最も近い専門職である産業看護職が、個々の人生観を持った従業員に対し、「なりたい自分」を想像し個人の価値観に応じたライフマップを描くことができるよう、それぞれの思いを傾聴し会社の制度等、従業員が必要としている情報を提供する重要な役割を担っていることを理解しました。

従業員にとって、そして自分自身にとってのワークライフバランスについて考える機会となりました。仕事や自己啓発、趣味、家族や友人と過ごす事など、やらなければならない事とやりたい事がたくさんあり、もっと時間が欲しいと感じることがよくあります。どのようにワークライフバランスを保っていくかを考える機会を持つことで、それぞれの人生観に応じた生活に近づけることができるのだと感じました。

従業員の方々が限られた時間のなかで自分らしく後悔をしない生活を送ることができるよう、自分自身が日頃からワークライフバランスを意識しながら行動し、研鑽を行いながら多くの経験を積んでいきたいと強く思いました。

第17回 近畿産業医部会研修会のご案内

下記要領にて近畿産業医部会研修会を開催いたします。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日 時：平成24年9月8日（土）14：00～17：00
場 所：大阪市立大学 医学部学舎 4階大講義室
（大阪市阿倍野区旭町1-4-3 TEL 06-6645-3611）
対 象：産業医、産業看護職、人事・労務・産業保健実務担当者

受講料：3,000円

受講予定者数：200名

テーマ・講師：メンタルヘルス対策～新たな試み～

14:00 基調講演「健康診断におけるストレスチェック」
講 師

岡田 邦夫（大阪ガス（株）人事部 大阪ガスグループ健康開発センター）

座 長

鍵谷 俊文（全日本空輸（株）勤労部大阪健康管理センター）

15:00 シンポジウム「産業現場におけるストレスチェックの実際～現状と課題～」

シンポジスト

森口 次郎（財団法人京都工場保健会）

鍵本 伸明（ナンバかぎもとメンタルクリニック）

出雲谷恭子（大阪市人事室）

座 長

萩原 聡（三菱電機（株）伊丹製作所総務部健康増進センター）

豊川 彰博（大阪ガス（株）人事部 大阪ガスグループ健康開発センター）

取得単位：日本医師会認定産業医制度 生涯研修（専門）3単位

日本産業衛生学会産業看護職継続教育実力アップコース2単位（申請中）

申込方法：（7月1日より受付開始）

氏名、職種、連絡先住所、電話・FAX番号を記載の上、実行委員会事務局までFAX（06-6582-8802）にて受付、申込の時点で定員を超えているような場合は参加をお断りする場合があります。尚、受講票は送付いたしません。

問い合わせ先：

第17回近畿産業医部会研修会実行委員会事務局まで
（実行委員長 豊川彰博）

大阪ガスグループ健康開発センター

〒550-0023 大阪市西区千代崎3丁目南2-37

TEL 06-6582-8801 FAX 06-6582-8802

産業看護部会からのお知らせ

平成24年度近畿産業看護部会

第2回定例研修会研修会のご案内

日 時：平成24年12月15日（土）
13：30～16：00（受付13：00～）

会 場：エルおおさか南館 7F 708号室

テーマ：すぐに使える統計の活用法（入門編）

－ どのような時にどのような統計やデータを使って自分の仕事を分析しますか－

講 師：兵庫大学健康科学部 看護学科 久井志保先生

内 容：産業保健における情報処理技術は、自社における仕事の分析や、安全衛生委員会をはじめとする組織への各種提言のために、身につけなければならない重要事項のひとつである。しかし、「統計＝苦手」の意識があり、どのような時に、どうやって統計を利用していけば良いか、基本的な知識が乏しく苦労している産業看護職が少なくない。また、そのために、せっかくの成果も効果的なプレゼンテーションにつながっていないことが推察される。

そこで今回の研修会では、入門編としてデータや統計の基本的な考え方とその活用法の実際について講義と演習を通して学ぶ。

参加費：日本産業衛生学会会員 無料
（非学会員は資料代¥500）

技術部会からのお知らせ

平成24年度も、総会と講演会や研究会を計画しています。ご意見、要望をお待ちしています。

- 1）技術部会の会員になろうと思われる方
- 2）秘術部会の研究会への意見のある方
- 3）技術部会と共同（コラボ）研究会を実施して見ようと思われる各研究会の担当者
- 4）その他 技術部会への要望

などの御意見がありましたら下記にご連絡下さい。

世話役 河合 俊夫

Tkawai@jisha.or.jp



私たちの職場

滋賀産業保健推進連絡事務所

代表 中西 一郎

私たちの職場は平成11年度に滋賀産業保健推進センターとして設立され、平成24年4月1日から滋賀産業保健連絡事務所と改称されました。設立時から故杉本寛治先生が所長を務められておりましたが、昨年6月に急逝され、10月から小生が2代目所長をさせていただいております。

私たちの連絡事務所は他の産保センター・連絡事務所と同様、以下の通りの各種事業を実施しております。

1) 窓口相談・実地相談

産業保健に関する様々な問題について、豊富な経験をもつ相談員が連絡事務所の窓口または電話・FAXにて相談に応じ、解決方法を助言しております。また、職場巡視等の実践的活動については、相談員が現地に伺い相談に応じ、具体的な方法を助言しております。

2) 研修

産業医・産業看護職・労務管理担当者・事業主の方々を対象に産業保健に関する専門的かつ実践的な研修を実施しております。また当連絡事務所以外の団体等が実施する研修についても、教育用機材の貸出し、講師の派遣等の支援を行っています。

3) 広報・啓発・情報提供

職場における産業保健の重要性を事業主の皆様 に正しく理解していただくため、事業主向けのセミナーを開催、産業保健に関するリーフレット、チラシを配布するなど広報・啓発を行っています。また、ホームページ、メールマガジンにて産業保健の情報を随時発信しております。

これらの事業は常勤職員の他に、委嘱をさせていただいている相談員の先生方を中心に実施しているものですが、当連絡事務所の相談員は他のセンター・連絡事務所と比べて比較的年齢が若く精力的に活動できていると考えております。窓口相談は少ないのですが、県勢や事務所の規模にしては、かなりの数の研修を行い、皆様のお役に立てていると自負しております。

さらに厚生労働省の委託事業として働く人の心の健康対策への取り組みが分からないという事業場のご担当者様を対象に以下のメンタルヘルス対策支援センター事業もさせていただいております。

【メンタル対策支援センター】

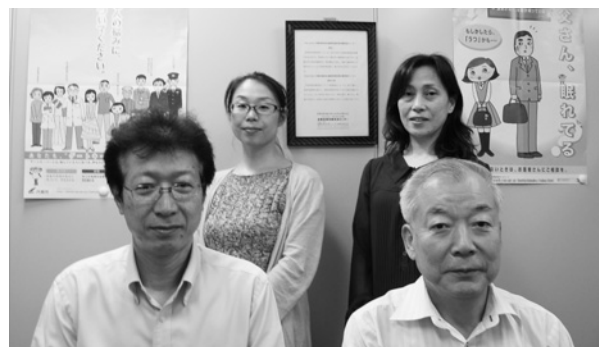
- 1) メンタルヘルス不調の予防から職場復帰支援までのメンタルヘルス対策全般について対応する総合相談窓口
- 2) 個別訪問支援の実施（個々の健康づくり計画の策定等）
- 3) メンタルヘルス対策（職場復帰支援プログラム等を含む）の周知、情報提供
- 4) 労働者、家族からのメンタルヘルス不調の相談

こちらにも、常勤職員の他に委嘱させていただいているカウンセラーの先生方にご活躍いただいておりますが、経験豊富な先生ばかりです。

厚生労働大臣が定めた第11次労働災害防止計画（平成20年度を初年度とする5カ年計画）において、「メンタルヘルスについて、過重労働による健康障害防止対策を講じた上で、労働者一人ひとりの気づきを促すための教育、研修等の実施、事業場内外の相談体制の整備、職場復帰対策等を推進することにより、メンタルヘルスケアに取り組んでいる事業場の割合を50%以上とすること。」が目標として掲げられ、国の重点施策として推進されています。私たちもこの数値目標達成のために微力ながら活動して参ります。

また今国会には、事業主に労働者の精神的健康の状況を把握するための検査を義務づける労働安全衛生法改正案が提出されており、職場におけるメンタルヘルス対策を取り巻く状況は大きく変わることが予想され、ますます産業保健スタッフの役割が重要になると思われます。

私たちの職場は所長以下5名の小所帯ですが、琵琶湖に面した事務所で産業保健スタッフの皆様のお役に立てるよう引き続き頑張っております。



会員の声



産業精神保健法学の 構築をめざして

近畿大学法学部
三柴 丈典

現在、三柴研究室では、労働法の中でも労働安全衛生法、中でも産業精神保健法に関する調査研究を中心に行っています。産業精神保健法というネーミングは、私が付けたもので、現段階では、(主に)職域で人や組織の成長や適応を促進するための法と定義しています。また、現場から国際まで(X軸)、過去から未来まで(Y軸)、実践から理論体系まで(Z軸)を見据え、そのありようを考える学問を産業精神保健法学と呼んでいます。

そもそも法律論者でありながら産業精神保健に関心を持った理由は、要するに、私自身、人文系の素養が強く、けっこう個性的性格だったからだろうと省みています。それが、いつのまにか驚くほど時代のニーズにマッチしてしまった面もあるのですが、そうなった以上、そのキーワードを1つ説得材料として、薄皮一枚分でも自分らしい社会貢献が叶えば良いな、と考えています。

とはいえ、むろん、今現在も、様々な場面、局面で軋轢は生じます。産業精神保健法学は、法政策や法理論に対し、ヨコ(平均的人間像の現象面を前提とした

一律的で強制的な対策)からヨコ+タテ(個々の人物や組織の経緯や脈絡を踏まえた個別的で柔軟な対策)へ、定性的・定量的な実体規制から実体規制と手続的規制の組み合わせへ、重点の移行を求める面があります。要は、以前よりオーダーメイド発想の重視を求める面があります。これは、ある意味では時代に即してはいますが、ある意味では本質的に非常に贅沢な要求でもあり、だからこそ、ヨコの発想を偏重する方々には特に受け入れられにくい面があるように思います。

けれども、多少なり新しいことをなそうとすれば軋轢など当然のことですし、今は、時代の変わり目です。そして、そのことは現場がよく反映しているため、まさにその現場の(客観的・合理的な)ニーズが私の調査研究を支えてくれています。特に産業衛生学会の先生方の中には、そうしたニーズの主体となり、あるいはそれを汲み取って、私を勇気づけて下さる方が多くおられます。

法学にも、現場を重視する法社会学という分野がありますが、法実務などに対して学問的な存在意義を保つのが困難だったせいか、ある種の思想傾向に流れすぎたせいか、今はやや元気がないようです。けれども、産業精神保健において、学際性、現場立脚の視点は不可欠です。むろん、タテの発想に偏りすぎないように(あるいはタテならタテでそれを徹底して掘り下げ、かつ多角的にみるよう)留意せねばなりません、産業精神保健法学の構想を打ち立てた以上、少しでも現場を見て法を語る姿勢は堅持したいと考えています。

雑感：石綿問題について 思うこと

(独立行政法人環境再生保全機構石綿健康被害救済部顧問医師、前独立行政法人労働安全衛生総合研究所)

森永 謙二

旧クボタ神崎工場周辺ではいまなお、職業上の石綿曝露がない人々に胸膜中皮腫を発症する患者が絶えない。通常では考えられない肺がん、石綿肺で亡くなった住民の方もいる。

阪神・淡路大震災後、石綿含有廃棄物等の処理で曝露を受けた労働者に中皮腫が発症し始めている。1987年に学校の吹き付け石綿騒動が起こったときに、ほとんど無防備のまま撤去作業に従事した、当時の大学生アルバイトにも中皮腫が発症している。またベーパーパウダー中に石綿が不純物として混入していたことがマスコミで大きく取り上げられたが、このタルク中の石綿による被害者は散見されている。2010年度末まで

に少なくとも労災では7,000人以上の労働者が中皮腫や石綿肺がんで亡くなっている。労災以外の石綿救済法で認定された中皮腫及び肺癌患者も2011年度末までに、法施行後に発症して認定された中皮腫及び肺癌患者は4,000人弱もおられる。法施行前死亡者で特別遺族弔慰金を受けた方は3,000人に達している。日本は1980-2003年に南アフリカで産出され、海外に輸出されたアモサイト(茶石綿)の40%を消費していた国である。戦後の日本の石綿(全ての種類)消費量は1,000千トン近くにのぼる。これからも石綿ばく露による被害者が絶えることはないだろう。

2005-2006年には産業衛生学会をはじめ、多くの関連医学会が石綿関連疾患等を話題にとりあげた。しかしここ数年、シンポジウムなどでとりあげた学会はほとんどない。昨今の産業衛生学会も過去の問題であるかのような取り扱いのように思われる。

石綿問題は終わった訳では決していない。今も深く進行中である。熱しやすく冷めやすい体質を改められるのはいつのことなのだろうか?と思い巡らす今日この頃である。

会員の声



オムロンと滋賀産業医会を 紹介します

オムロン(株) 草津事業所
健康管理室
辰 吉光

皆さんはオムロンでは何を作っていると思われますか。血圧計、体温計などの答えを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。それらも作ってはいますが、実際は工場内におけるセンサー、スイッチ、そしてそれらを複合的に動かすコンピューター内蔵のコントローラーなど、オートメーションの部品を作るのが得意な会社です。もちろん駅の自動改札機も作っております。自動改札機の内部を、切符が通っていくスピードは、何度見ても驚かされます。さて私のいる草津事業所は、以前は生産が主でしたが、今は海外への生産移転がすみ、研究開発やmother工場としての役割をしております。比較的小さな商品が多く、大きな外傷が発生する可能性は低いのですが、小さな怪我では来室されます。どこでもそうでしょうが、現在の産業医の仕事はメンタル対応が主ではないのでしょうか。しかし、自分は常に安全にも注意を払っていこうと思っております。

す。もともと産業医学は職場における危険作業、有害物から労働者や地域住民の方を守ることが目的のひとつであったと思います。初心を忘れないようにしようと考えております。

さてここオムロン草津に来たときより、滋賀県産業医会の一員に入れていただきました。当時は饗庭明彦先生が会長をされておりましたが、今は中西一郎先生が会長をされておられ昨年の近畿地方会会長をされた木村隆先生も御活躍されております。この滋賀産業医会は昭和46年に設立され、昨年40周年を迎えることができた歴史のある会です。年1度の総会以外にも、今年で75回になる労働衛生研究会、特別講演も有る事例研究会を年に2回、精神科診療所の先生方との合同研究会も今年で5回目となります。その40年の活動の記録をみますと、昭和40年代には、PCBやトリクレンの問題が、昭和50年代に入りますと頸肩腕症候群や高血圧の対策が、平成に入りますとメンタルヘルスや海外渡航者の健康管理などについての話題があり、その時代背景が彷彿とされます。このように滋賀産業医会の活動は非常に活発です。私も諸先輩の活躍に恥じないように、微力ながら協力させていただこうと思っております。今回は滋賀産業医会の紹介を会員の声にさせていただきます。



社風に合わせた健康管理

(株)ワールド 人事部労務課
保健師
雑賀佳世子

私は、学生時代から自社ブランド製品を着用し、愛着があったため、産業保健師として就職するなら、ワールドで働きたいと希望し、入社しました。

当社は1959年にニットの卸売業として神戸市に創業した、婦人、紳士及び子供服、服飾雑貨等の企画、製造、販売を行う総合ファッションアパレル企業です。主要ブランドは、UNTITLED (アンタイトル)、INDIVI (インディヴィ)、HusHush (ハッシュアッシュ)、TAKEOKIKUCHI (タケオキクチ)、aquagirl (アクアガール) など。ワールドグループは、関連会社(縫製工場、染色工場等)も多く、グループ会社19社、海外関連会社7社にて構成されています。

グループにおける従業員全体の約8割は、北海道から沖縄まで日本全国に点在する店舗に勤務する販売職で占められています。販売職の大半は20歳代の女性社員であり、グループ全体の平均年齢は29歳と全国的に見てもかなり若いため、結婚・出産・育児等、個人の

ライフスタイルの変化に合わせて、女性特有の健康問題が数多いことが当社の特徴です。

保健指導の場面で「そのアクセサリはどこのブランドのもの？」と声をかけられる等、お洒落でファッションに敏感な方が多く、ストールやアクセサリの雑貨を使ったさりげないお洒落のセンスを身につけた男性従業員が多いことに入社当初は大変驚きました。実年齢より10歳は若く見える従業員が多く、性別、年代を問わず、お洒落でありたいという気持ちが人を自然に若々しく、魅力的にさせてくれるのでしょうか。個性をファッションで表現できる自由な社風が当社の素敵どころだと感じます。そのため、保健指導においても、美容とファッションの観点から啓発、支援することが有効なアプローチとなることが数多くあります。社風に合わせた健康管理体制や、社内環境づくりを推進することも産業保健活動の重要ポイントだと考え、取り組んでいます。

私自身も、ファッションが好き、ワールドのブランドが好き、そんな「好きの想い」が従業員の健康管理を行う上での大きな活力となり、日々の保健師活動へと繋がっています。これからも従業員とのコミュニケーションを積極的に行い、会社に好感を持って、働く保健師でありたいと思います。

第22回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会のご案内

テーマ：産業保健と危機管理

～どう備え、どう動くか～

<http://22ncopn.jtbcom.co.jp/index.html>

日程 2012年11月22日〔木〕～24日〔土〕

(22日は実地研修など)

11月25日〔日〕(特別研修会など)

会場 東京工科大学 蒲田キャンパス
(〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22)
<http://www.teu.ac.jp/campus/access/006644.html>

企画運営委員長

福本 正勝(財団法人 航空医学研究センター)

企画運営副委員長

谷山佳津子(朝日新聞東京本社)

武田 桂子(日本電気(株) 田町健康管理センター)

品田佳世子(東京医科歯科大学)

特別講演「演題未定」JAXA 川口淳一郎教授

シンポジウムなど「これからのメンタル対策」厚生労働省衛生課長講演など

「企業における危機管理」

「企業における危機管理」、「企業の

労務管理」、「海外勤務者の健康管理

管理」など

実地研修 JR東日本大井町操車場、旭プリンテック、
全日本空輸株式会社、大田区京浜島など中
小企業など

ポスターセッション 受付中

簿とともに郵送します。新代議員は投票用紙を選挙事務局長あてに郵送します。投票締め切り後、選挙管理委員会が開票して確定します。

選挙管理委員長 西尾久英(神戸大学)

選挙管理委員会事務局長 埴田和史(滋賀医科大学)

「第12回近畿臨床産業医学フォーラム」 開催のお知らせ

当番世話人：岡田 章

謹啓

時下、先生方におかれましては、益々御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、第12回近畿臨床産業医学フォーラムを下記の如く開催致したく存じます。

御多用中の折とは存じますが、万障お繰り合わせの上、是非ともご出席賜りますようご案内申し上げます。

謹白

ー記ー

日時：平成24年9月5日(水) 18:00～

場所：ホテルモントレ大阪 7階「パルフィ」
大阪市北区梅田3-3-45 JR大阪駅 桜橋口
TEL (06) 6458-7111 (代表)

参加費：1,000円

申込み：以下の事項を記入の上(様式自由)、第12回近畿臨床産業医学フォーラム事務局(GSK内)までFAX(03-5786-5235)でお申し込み下さい。折返し参加確認書をFAX致します。

①ご芳名 ②貴社・医療機関名 ③ご所属・ご役職 ④ご連絡先(電話番号、FAX番号)

締切：8月20日(月)(先着100名様)

問合せ先：第12回近畿臨床産業医学フォーラム事務局
高木、鹿野(03-5786-5184)

ープログラムー

テーマ「女性の健康管理」

18:00～ 製品紹介 グラクソ・スミスクライン(株)

18:15～ テーマの主旨説明並びに司会

医療法人 起生会 理事長 岡田 章先生

講演

●女性の検診の実態と問題点(18:20～18:40)
京都工場保健会

副会長 武田和夫 先生

●女性従業員の健康管理(18:40～19:00)
株式会社ワールド 人事統括部 人事部労務課

保健師 雑賀佳世子 先生

●女性特有の癌について～企業検診に望むこと～
◆子宮頸癌(19:00～19:20)

大阪府立成人病センター

婦人科主任部長 上浦祥司 先生

◆乳癌(19:20～19:40)

大阪労災病院

乳腺外科部長 松並展輝 先生

19:40～ パネルディスカッション

*当日は軽食をご用意しております

共催：日本産業衛生学会近畿地方会

近畿臨床産業医学フォーラム

グラクソ・スミスクライン(株)

近畿地方会役員選挙公告

①次期地方会会長、次期監事、次期代議員の選挙を行います。

②7月30日(月曜日)正午までに、次期地方会会長と次期監事の自薦他薦候補者を電子メール(nishio@med.kobe-u.ac.jp)あるいはファックス(078-382-5559)で選挙管理委員長(西尾)にお知らせください。候補者を推薦される場合(他薦候補者の場合)、その候補者の日本産業衛生学会の会費納入状況(会費未納の場合、被選挙権が与えられなくなります)と当選時の受諾意思について御確認いただき、そのこともお知らせください。

③9月24日(月曜日)までに、選挙管理委員会事務局は地方会員全員に、地方会会長候補者と監事候補者(すでに受諾意思が確認された者)の氏名と代議員候補者(被選挙権者名簿に掲載されたもの)の氏名とかなる名簿と投票用紙とを郵送します。

④投票期間は、9月25日(火曜日)から10月12日(金曜日)(必着)です。

⑤10月13日(土曜日)開票作業が行われます。ここで、地方会会長と監事が決まります。

⑥10月15日(月曜日)～10月19日(金曜日)に、選挙管理委員会事務局は、代議員当選者に往復はがきを送り、受諾意思の確認を行います。辞退者があれば、次点者を繰り上げ当選とし、また受諾意思の確認を行います。こうして、新代議員が決まります。

⑦11月1日に、選挙管理委員長と選挙管理委員会事務局長は、新地方会会長と新監事と新代議員の名簿を作成し、本部に報告します。

⑧11月から12月にかけて、選挙管理委員会事務局は、新代議員に理事互選のための投票用紙を新代議員名

第一回代議員会議事録 (詳細は総会議事録2頁参照)

日時 2012年6月16日(土) 12:10-12:50
場所 大阪市立大学医学部学舎4階小講義室1

1. 開会
2. 地方会長の挨拶
3. 昨年度物故会員の報告
4. 議長選出
圓藤陽子会員(関西労災病院)を選出
5. 代議員会の成立
5月15日現在の代議員数113名
出席30名(委任状52名)
現在数の過半数の出席により代議員会は成立
(地方会会則第13条)
6. 議事
 - (1) 平成23年度事業報告(案)
 - (2) 平成23年度決算報告(案)
 - (3) 平成23年度監査報告(案)
 - (4) 平成24年度事業計画(案)
 - (5) 平成24年度予算(案)
 (1) から (5) はいずれも異議なく承認された。
 (6) 第52回近畿産業衛生学会(和歌山)の進捗状況
 (7) 第53回近畿産業衛生学会(京都)の準備状況
 (8) その他
 - ① 選挙管理委員会委員選任と委員長互選報告
 - ② 2014年度近畿産業衛生学会の開催地
 - ③ 近畿地方会「産業看護職実態調査」報告
 - ④ 地方会ニュースの発行状況とHP更新状況
7. 議長解任
8. 閉会

第一回幹事会議事録 (詳細は総会議事録2頁参照)

日時 2012年6月16日(土) 10:50-12:00
場所 大阪市立大学医学部学舎18階会議室
出席 車谷 清田 圓藤 廣部 大脇 廣田(監事)
植本(監事) 伊木 河合(代理) 木村 久保
鮫島 鈴木 竹村 中西 西尾 藤岡 宮下
森岡 山田
欠席 伊藤 岡田 小泉 埴田 土手 夏目 宮上
(敬称略・順不同)

1. 昨年度物故会員の報告
2. 議事
 - (1) 平成23年度事業報告(案)
 - (2) 平成23年度決算報告(案)
 - (3) 平成23年度監査報告(案)
 - (4) 平成24年度事業計画(案)
 - (5) 平成24年度予算(案)
 (1) から (5) はいずれも異議なく承認された。
 (6) 第52回近畿産業衛生学会(和歌山)の進捗状況
 (7) 第53回近畿産業衛生学会(京都)の準備状況
 (8) その他
 - ① 選挙管理委員会委員選任と委員長互選報告
 - ② 地方会役員選挙方法等について
 - ③ 2014年度近畿産業衛生学会の開催地
慣例通り大阪とし、学会長は圓藤理事を中心に
選考し、第52回近畿産業衛生学会時に決定する。
 - ④ 近畿地方会「産業看護職実態調査」報告
 - ⑤ 地方会ニュースの発行状況とHP更新状況
 - ⑥ 本部理事会報告
圓藤理事(本部副理事長)から、地方会会費を
廃し、新たに「広報・通信費」を設けること、本

部の定款変更で選挙方法は次回修正になる可能性のあること、労働安全衛生法改正案に関する新聞報道が事実誤認であること等が報告された。

- ⑦ その他
次回幹事会は8月30日(木)。

会員の異動(敬称略)

<新入会員>

南波 香織	大阪市立大学 保健管理センター
田坂 康子	花王(株)大阪事業場
吉本 望	西日本旅客鉄道(株)
松本 千寿	大日本スクリーン製造(株)彦根地区事業所
中川 克	立命館診療所分室
寺川 葉子	(株)ノーリツ
浜崎 佳代子	(株)ノーリツ
中村 喜代美	小松製作所 大阪工場 健康管理室
松田 浩子	同志社大学
赤井 琴美	パナソニック(株)AP社 草津北 健康管理室
安島 佳世	パナソニック産業衛生科学センター
西田 尚代	パナソニック産業衛生科学センター
西川 知見	パナソニック(株)AVCネットワーク社 南門真健康管理室
福田 真理	パナソニック(株)AVCネットワーク社 北門真健康管理室
辻本 麻紗美	パナソニック(株)デバイス社 キャパシタBU 健康管理室
松本 由美子	パナソニック(株)デバイス社 健康管理室
石神 真人	日本生命保険相互会社 本店健康管理所
井戸 敬子	三菱工業(株)栗東製作所
今泉 弘美	SCSK(株)
小野 恵子	大阪府警本部 健康管理センター
加茂 正嗣	神戸製鋼所 茨城工場 総務室健康管理センター
久保 喜美子	関西アーバン銀行 健康開発センター
古賀 博江	東京海上日動メディカルサービス株式会社
櫻井 進	天理医療大学
澤岡 均	(株)クボタ本社 阪神事務所
野沢井 静	(株)クボタ本社 阪神事務所
三本木 麻衣子	洛和会丸太町病院
塩田 真梨奈	みずほ健保大阪健康開発センター
白石 友咲	みずほ健保大阪健康開発センター
城本 真理	社会医療法人 製鉄記念広畑病院
橘 つるえ	原子燃料工業(株) 熊取事業所
常見 幸	兵庫医科大学 リウマチ膠原病科
豊田 剛	J T大阪支店 エリア支援部
東 文香	一般財団法人 和歌山健康センター
山名 愛	一般財団法人 和歌山健康センター
廣野 陽子	三菱重工業(株)神戸造船所
吉田 康弘	(株)クボタ 堺造船所
吉田 由記子	摂南大学看護学部
井上 敬	パナソニックSUNX 竜野株式会社
請川 美樹	株式会社 メディカルコンシェルジュ
加藤 由加	(株)ヘルスウエイブ
河村 沙江	大阪産業保健推進センター
桑木 ゆかり	任天堂(株)
志村 政幸	コニカミノルタ総合サービス(株)
墳本 敏彦	つかもと整形外科
中尾 恵美子	三井住友銀行 大阪健康サポートセンター
廣田 善彦	(株)村田製作所 八日市事業所
本田 美樹	旭硝子(株) 関西工場
松本 久美子	(財)近畿健康管理センター
村井 佳代子	日本郵政(株)近畿郵政健康管理センター

<再入会>

堀田 昌子	三井化学(株)大阪工場 健康管理センター
馬段 梨乃	
古澤 俊一	
金森 雅夫	
赤築 綾子	

第52回近畿産業衛生学会のおしらせ（第2報）

第52回近畿産業衛生学会長 森 岡 郁 晴
(和歌山県立医科大学保健看護学部)

1. 会 場

和歌山県立医科大学保健看護学部
和歌山市三葛580 TEL: 073-446-6700

2. 日 時

平成24年11月17日（土）10:00～16:30
午前……一般演題
昼……幹事会・代議員会、昼食セミナー
午後……シンポジウム「東日本大震災から考える
産業保健における健康危機管理」
基調講演
坂田清美（岩手医科大学医学部教授）
シンポジスト
豊川彰博（大阪ガス健康開発センター）
河合篤子（神戸製鋼所健康保険組合）
宮本俊明（新日本製鐵君津製鐵所）
特別報告「洪水被害から考える産業保健」
オラワン・ゲオープンチュウ
（タイ王国マヒドン大学准教授）

* シンポジウムに関して、

- (1) 日本医師会認定産業医研修の単位認定、日本産業衛生学会産業看護職継続教育（実力アップコース）単位認定、日本労働安全衛生コンサルタント会CPD研修の単位認定の申請予定です。
- (2) オラワン先生からの報告は日本語です。

3. 一般演題申込

(1) 演題申込

演題の申込は本ニュース同封の「演題申込用紙」あるいは日本産業衛生学会近畿地方会のホームページより「演題申込用紙」をダウンロードし、必要事項をご記入いただき、平成24年8月31日（金）までに、第52回近畿産業衛生学会事務局までFAX、Eメールのいずれかでお申し込みください。
一般演題の筆頭演者は、日本産業衛生学会の学会員であることが必要です。会員でない方は、入会手続きを事前に行ってください。

(2) 発表抄録原稿

日本産業衛生学会近畿地方会のホームページより「発表抄録原稿の作成要項」をダウンロードし、抄録原稿の作成方法に従って作成してください。
発表抄録原稿は、Eメールの場合は10月1日（月）までに、第52回近畿産業衛生学会事務局までお送りください。郵送の場合は当日消印有効です。なお、学会終了後、抄録集はPDF化し、地方会ホームページに掲載することが、昨年・第3回幹事会で決定されている。

(3) 発表概要原稿

産業衛生学会誌に掲載するため、発表概要を400字以内にまとめて発表抄録原稿とともに、平成24年10月1日（月）までに、第52回近畿産業衛生学会事務局までお送りください。

(4) 発表者用パワーポイントファイル

発表にパワーポイントを使用される方は、USBフラッシュメモリをご準備いただき、発表セッションの30分前までに発表会場前のPC受付にお越しください。

4. 近畿産業衛生学会優秀演題賞と第52回近畿産業衛生学会若手奨励賞

昨年から特に優れた演題の発表者に対し近畿産業衛生学会優秀演題賞が贈られています。

さらに、第52回近畿産業衛生学会では学会若手奨励賞を設けました。対象者は一般演題の発表者のうち、大学院生（学生を含む）、若手研究者（申込時に40歳未満）に該当する方です。該当者は演題申込用紙の所定の欄に○印をつけてください。皆様の演題申し込みをお待ちしております。

5. 参加費

日本産業衛生学会の学会員1,000円
非会員2,000円、大学院生・学生1,000円

6. 昼食・懇親会の事前申込

(1) 昼食

本学部の周辺には食事をする施設はありません。そこで、昼食弁当として、紀州味噌ぐり弁当（1,000円）を用意させていただきました。

(2) 懇親会

17時30分よりロイヤルバインズホテルにて懇親会を開催します。会場より無料マイクロバスが出ます。参加費は4,000円です。マグロの解体ショーを予定していますので、是非ご参加ください。

(3) 事前申込

昼食弁当、懇親会は、事前申込をお願いします。日本産業衛生学会近畿地方会のホームページより「参加申込書」をダウンロードし、学会参加、昼食申込、懇親会参加に○印をご記入いただき、平成24年11月5日（月）までに、第52回近畿産業衛生学会事務局までFAX、Eメールのいずれかでお申し込みください。学会当日も若干受け付けは可能ですが、数に限りがございます。

7. ダウンロード

演題申込用紙、発表抄録原稿の作成要項、参加申込書の様式はホームページよりダウンロードできますので、ご活用ください。
URL: <http://jsohkink.umin.jp/>

8. 演題申込・問い合わせ先

〒641-0011和歌山市三葛580
和歌山県立医科大学保健看護学部
第52回近畿産業衛生学会事務局
森岡郁晴・宮井信行
TEL: 073-446-6700, FAX: 073-446-6720
Eメール: 52ksanei@wakayama-med.ac.jp

編集後記

最近の労働衛生の話題では近畿地方会、技術部会発起人の熊谷信二先生が学会で報告したオフセット校正印刷労働者で多発した胆外胆管癌、まだまだ沢山の問題が存在するのを感じました。地方会ニュース、ホームページは会員の学術的情報交換、コミ

ュニケーションの場として活用を期待しています。
でも原稿集めに四苦八苦。（河合）

編集委員（五十音順）

大脇多美代（編集責任）

河合 俊夫 木村 隆 鈴木 純子

竹村 芳 中西 一郎（広報事務局）

藤岡 滋典 宮下 和久